

## DMF保護金属微粒子触媒を用いた有機変換反応

大洞 康嗣 教授（関西大学 化学生命工学部）



2015年1月30日（金）16:00–17:30

創成科学研究棟4階セミナー室A

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>

遷移金属のシングルナノ粒子化は、クラスターの表面積が向上するため高活性触媒としての利用が期待されている。本講演では、ジメチルホルムアミド(DMF)を反応溶媒、保護剤、兼還元剤とし、パラジウム、銅ならびに鉄微粒子の液相合成法を述べる。また、これらを触媒として用いた、クロスカップリング反応、ヒドロシリル化などの有機合成反応の最新の成果を報告する。

問合せ先： 触媒化学研究センター・小笠原正道 (ogasawar@cat.hokudai.ac.jp・011-706-9154)